

山と電気の風景論 ③⑤

大台ヶ原と伊吹山～日本武尊の東征伝説・修験古道と関西圏の広域水源～

セリングビジョン㈱ 代表取締役 岡部 秀也

前号までに日本百名山の峻険な北アルプス山岳地帯を全てカバーした。

今回は一転して関西電力エリアに位置する比較的登りやすい百名山を扱いたい。三座あるが、どれも古代史を辿る歴史的、伝説的な山々である。筆者は関西電力に出張し、山岳好きな仲間にも、近畿の山岳地帯の話聞きつつ、翌日からこれら三座に三日間にわたりチャレンジした。晩秋で天気は変化しやすく肌寒かったが、大台ヶ原、大峰山、伊吹山を連続登頂できた。修験者や戦乱の武士も行き交った伝説もある古道である。

昨年1月号で大峰山を扱ったので、本号では残る大台ヶ原、伊吹山を特集したい。

両座の共通点と特徴

まず共通点としては、大阪から距離があり時間がかかるもののアクセスははっきりしていることだ。そして頂上まで危険箇所はほとんどなく登りやすく初心者でも親しまれる山である点だ。登山者でなくても伊吹山ドライブウェイ駐車場から頂上への往復は2時間もあればゆっくりと山頂での散策や食事も楽しめる（12月から冬季通行止めであるので注意）。大台ヶ原も、ドライブウェイが麓から頂上付近まで整備され駐車場付近には立派なビジターセンターやレストランも多い。

次に、両座とも歴史的に神聖な古道であり、例えば頂上には、伊吹山は霊山として日本書紀の神話にも登場する日本武尊の銅像が鎮座し、大台ヶ原には



強風・大雨の大台ヶ原頂上

聖なる牛石の傍らに神武天皇像が立っている。その一方では、保護してきた野生の鹿が増え、緑濃い木々が食害にあい枯れ木と倒木が目立ってきた。鬱蒼とした山の再生は植林では長年もかかり難しい。登山道を歩くと広場もあり美しいが周辺の皮がむかれた木々を見ると人間と自然との共生の在り方に自問せざるを得ない。

三点目は、両座とも多雨で濃霧の発生確率が高いことだ。とくに大台ヶ原は年間4000ミリ以上の雨量で屋久島宮之浦岳に並ぶ。本州最大の多雨地域の奥地である。この多雨は、伊吹山は琵琶湖に注ぎ、大台ヶ原は三か所の貯水池に流れてダムができ水力発電所、生活用水、工場用水で広域的に活用されている。

特徴としては、まず大台ヶ原は奈良と三重にまたがる吉野熊野国立公園の台高山脈の核心部である。しかし登山できるようになったのは明治維新以降の百数十年に過ぎない。蝦夷の探検家が登り開拓し世に知られるに至った。大台ヶ原から雨は大杉渓谷を



伊吹山頂上直下にドライブパーク



雪が止んだ伊吹山での日本武尊



信長が指揮した本草学の薬園：伊吹山中腹

形成するが、この渓谷は黒部渓谷と清津峡と並ぶ日本三大渓谷である。多雨は森を育み渓谷を造る。1961年に車道が整備され人気の登山コースとなったのである。ビジターセンターもでき太古の原生林の秘境を現地の植生、動物などの生態系を学習しつつ日帰りできるのはありがたい。頂上の日出ヶ岳を目指すのがピクニックの雰囲気である。清流の水源は熊野川に注ぐ。大蛇峠は神の鎮座する場所で断崖絶壁だ。きもが冷える。修験道の谷底は豪雨での侵蝕が進み目がくらむという。

伊吹山といえば、織田信長が南蛮人に命じ海外の薬草を運ばせ、薬園を作り本草学習の研究の場となったことで有名である。

ロマンをかきたてられる古代の伝説もある。日本武尊が東征からの帰路に、伊吹山に棲む妖神を退治に登山したが、逆にその化身の大蛇の毒に当たった。そこで、山麓の醒ヶ井戸水で解毒したものの、逃避した伊勢で最期を遂げたというものだ。

また山に咲く花は1000種類以上あり頂上からは、日本海岸と太平洋側が見える。琵琶湖や鈴鹿の山々や比叡山方面の峰が眺望できる。付近は賤ヶ岳、姉川や天下分け目の関ヶ原など古戦場でもあり栄枯盛衰の歴史を感じさせられる。

大台ヶ原（平成25年11月15日）

標高1695m、往復6.4km、3時間50分（休憩含む）、標高差156m。ルート：直登コース1.9km＋尾鷲辻コースと牛石往復4.5km。

大台ヶ原に登り雨に打たれなかったら、よほどの晴れ男・晴れ女と自慢してよいと登山の先輩が教えてくれた。筆者の場合、案の定、ひどい強風・豪雨に見舞われた。日頃の精進不足を身を持って反省した！

岩や木も苔を見ても神がかった雰囲気である。南は熊野灘や大峯山脈が見えるはずがガスで見えなかった。冬の空気が澄む日には富士山も眺望できる最西端にあるのだが、次のリベンジ登山の機会を待ちたい。

寝牛の形に似た大石がある牛ヶ原は一面、笹に覆われ太古の大木も残る。近くに神武天皇の銅像が立つ。国造りの伝説的な天皇が、東征に向かったとも伝えられている。



森には鹿や熊などの動物が生息。環境省

【行程】

- 5時半に大阪のホテルにて起床。小雨。地下街から6：38大阪発。阿倍野橋を經由し大和上市8：48着。9：00登山バスで発。
- 10：51 大台ヶ原パーク着。ぜんざいで暖まり雨除けのフェザースーツ（日本原電製）に着替えた。
- 11：05 大台ヶ原登山口着、登山開始。石段、木段とも雨でぬかるみ残雪もあり注意した。
- 11：50 頂上・日出ヶ岳。しばらく大台の下で雨宿り。苔、鳥、高山植物を視察しつつ、無残な杉立木枯れも。
- 12：35 正木ヶ原。
- 12：46 尾鷲辻。
- 13：00 牛石・神武天皇像。雨天とガスで大蛇峠は景色が見えないため尾鷲辻に引き返し、石だたみと起伏のゆるやかなオプションコースを歩く。
- 13：40 駐車場へ。ビジターセンターの各種説明資料を見て、歩いた体験を振り返って大台ヶ原の自然環境を頭に入れた。
- 15：30 バス発。急に太陽が顔を出す。帰りは多数の剣山たる山並み底深い淵や崖さらに頂上山脈を見る。帰りは景色良く吉野川の麓も秋晴れになった。



鹿による食害で杉は立木枯れ



夕方、秋晴れに転じ八経ヶ岳方面を展望

伊吹山（平成25年11月17日）

標高1377m，往復10.6km，4時間27分（休憩含む），標高差1167m。ルート：三之宮神社コース。

【行程】

大峯山脈の信仰の積雪の弥山，八経ヶ岳を往復したあと，20：20の関西発・東京成田への航空機はバードストライクでキャンセルとなった。ホテル代と帰路のフライト実費返還されることになり，大阪にまた一泊し，急ぎよ，伊吹山の登頂を思い立った（禍転じて福となす！の気持ちで）。

翌朝，ホテルで朝食は地元の船場汁，たこ焼き，湯豆腐，珈琲で体力つける。8：00大阪発新快速米原経由長浜9：42着に飛び乗った。

10：50 登山バス口。

11：47 3合目。参道のような石畳などを歩む。

12：15 5合目。一面の草原が広がる。その上は岩場となり6合目は避難小屋。

13：06 8合目。小雪がちらついて寒くなってきた。

13：22 頂上。直近で唯一開店の土産・食堂経営の主がいた店に入った。

主が熱湯を注いでくれたシーフードヌードルで暖まった。山バッジを記念に求め，草饅頭は下りの栄養源にした。

主曰く，①昨日まで最近降った雪が地面に一杯で登りにくかった。もう先週で店仕舞いを考えていた。②今日までオープン。明日閉鎖。12月は一面の雪景色。③今日は天気恵まれたが，普通は雨が多い。今日の登山者はラッキーだ。石油ストーブは外気がマイナスのとき登山者の体力回復に必要なが今日で使い切る。④今日の登山者は鹿を近くで見たそうだが，鹿は森林を食い荒らし散らかし枯れ木としてしまう。タダでいいから鹿を持っていてくれないか！

13：51 下山。その前に日本武尊像と八方の山脈を展望満喫。30ほどの団体登山グループが休憩食事していた。帰りは早く進み一時間半で麓に着く。各合目を10分目標でグングン追い越した。8グループを抜く。暗い杉林の坂を下り神社到着。神社に安全感謝し浄水でお清め。

15：17 登山口。

関西電力と中部電力，Jパワーが多雨の水力発電を制御

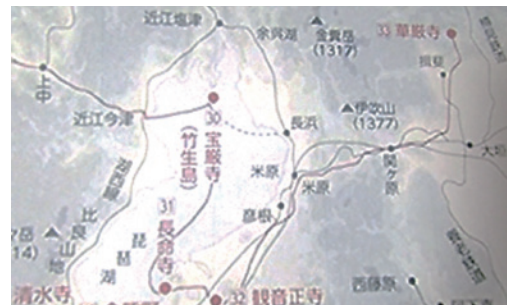
伊吹山からの雨や雪解水は伊吹発電所（5,400kW）等を経て日本最大の湖，琵琶湖の東北部に流入する。その姉川ダムは28.3km²の流域を誇り，まさに地域に命の水を供給している。琵琶湖からは淀川水系へ大水源となり，南禅寺付近の疎水の歴史的な蹴上発電所（4,500kW）にもつながっている。つまり伊吹山の清流は琵琶湖を経由し，はるばる滋賀から京都，大阪の大水源，水運をも形成して関西経済社会の基盤を担っているのである。北～東の山間部からは，揖斐川や横山ダムや徳山ダムがあり貴重な水源になっている。揖斐川近くには西国33所巡礼の観音菩薩の霊場を辿る，結願というべき第33番の華嚴寺がある。

大台ヶ原からの貯水池は西北斜面は大迫ダム，北側は宮川ダム，南側は坂本ダムに三つの分水嶺がある。西北斜面は奈良県・和歌山県（関西電力エリア）で吉野川，南斜面は熊野川，東斜面は大杉谷を経て宮川となるがこちらは三重県（中部電力エリア）である。大迫ダムに関西電力・大迫発電所（7,400kW）があり，そこから連なる吉野川（紀ノ川）の流域には大滝発電所（10,000kW），樫尾水力（3,650kW），吉野水力（2,700kW）に流れ込み式でつながっている。

宮川水系では三瀬谷水力（11,400kW），宮川第一水力（25,600kW）宮川第二水力（28,600kW）宮川第三水力（12,000kW）などで利用されている。南側は，Jパワーの坂本ダムの尾鷲第一発電所（40,000kW）の取水源となり，さらに35万kWもの揚水式の池原発電所の大水源となる。

このように大台ヶ原は三県の大地を潤す大水源であるが，広域的集中豪雨が，ひとたび起きると下流に大蛇を放ったような大洪水（大台のきちがい水）を引き起こすから「常に水害の制御に各自の持ち場で神経を集中している」（関西電力，中部電力，Jパワーの水力制御スタッフ）。

自然災害の脅威を前に，電力会社には水力の制御に，その匠の技を十分発揮してほしい。



伊吹山は琵琶湖，揖斐川の大水源であり西国33所巡礼の結願